

中心市街地をいっそう衰退させる「MICE」はいらない！



MICE によらない別の道を市民参加で考える・・・再開発学習会に学ぶ Part 2

1月27日、「桜町再開発・MICE 施設を考える学習会」が開かれました。熊本大学名誉教授・鳥飼香代子先生が、熊本市が計画をすすめるMICE（3000人収容の大会議場）計画の問題点を指摘し、MICEによらない熊本のまちづくりについてお話されました。

中心市街地の「にぎわい」のためにも、県民百貨店は残すべき

桜町再開発ビルの商業スペースは面積が3分の1になるので、その中に県民百貨店なみの品揃えができる店舗を確保することは難しくなります。また、新築された再開発ビルは、テナント料も高くなるので、入居できる店舗が限定されます。高級ブランドのテナントだけでは、今のような集客はできません。

県民百貨店は、長年の努力の積み重ねにより固定客との信頼関係を形成、人を集める魅力になっています。

また、桜町の県民百貨店と、通町の鶴屋百貨店の距離は800mで、ちょうど歩いて移動できる距離にある。その一方・県民百貨店がなくなると、回遊性が低下し、下通り・新市街のお客が減少してしまいます。

県民百貨店をなくし、同規模の店舗をつくれない桜町再開発は、中心市街地を衰退させてしまいます。2核（鶴屋と県民百貨店）3モール（下通り、上通り、新市街）の1核として、県民百貨店は残すべきです。

「花畑広場」は、危険なエリアになる可能性が高い

もともと公園は犯罪発生の多い場所です。周辺に人の目がない、道路にかこまれた花畑広場は、危険なエリアになってしまいます。

ヨーロッパの「広場」は、周辺に公共施設と住宅があり、常に人が集

う場所です。

また、広場は公共の場所で、基本無料、だれでもが自由に使えるればなりません。利用料を払い、占有する場所ではありません。

大会議場は全国的にも赤字、3000人規模の大会議場はいらない

全国の政令市すべてに3000人以上規模の大会議場があるわけではありません。しかも、多くが赤字です。

【政令市の大会議場】

- 3000人大大会議場
(黒字) 名古屋・福岡
(赤字) 千葉・横浜・静岡
- 2000人大大会議場
(黒字) 埼玉・札幌
(赤字) 浜松・大阪

*他の政令市は、2000席以下のホール

国際会議は、大学での開催も多く、開催件数の80%は500人規模以下です。

熊本で開催された学会等の大会議は、今年度1000人以上規模は5件（2014年10月まで）です。しかも、本市のコンベンションの半数以上は、大会議場のいらないスポーツ系です。主催者側からすると、国際空港へのアクセスのいい福岡市が圧倒的に好条件です。

2000席以上のコンサートホールの必要性には疑問

2000席のコンサートホールが必要と強調されていますが、2000席必要という根拠はありません。

しかも、コンサートホールは基本的に赤字です。福岡サンパレスも2004年に民間企業が買い取っています。

これからのまちづくりの方向は・・・

- ① 中心地区に、人が来なければならぬ施設を残す
行政機関（市役所等）、病院・大学など、
- ② 都市づくりはマネジメントが基本・・・次世代に借金を残さない
- ③ ハコモノでなく、イベント・文化のソフトで勝負する
中心地区の回遊性・滞在時間を延ばす。
不必要なハコモノをつくると中心地区は衰退する。町が衰退すると、市民も貧困化する。

市民病院へ緊急要請

市民病院建て替え凍結を白紙に戻し 命を守る施設の整備を一日も早く！

2月3日、日本共産党熊本市議団(ますだ牧子、上野みえこ、なすまどか各市議)と党地区委員会(山本のぶひろ県政対策委員長、やまべひろし北区市政対策委員長、ゆろせゆみ南区市政対策委員長)は、市民病院の高田明院長に対し、市民病院の建て替え凍結方針に対し、緊急の申し入れを行いました。



市議団と党地区委員会で院長へ申し入れを行いました

病院耐震化は先送りできない重大な問題

そもそも市民病院を建て替える大事な理由の一つが、南館の耐震化問題です。1981年の耐震新基準を満たしておらず、本来ならば2015年度までに耐震整備を行う予定でした。

事業費が大きく膨らんだことが建

て替え凍結の原因ですが、利用者や職員の安全にかかわる問題だけに、見通しのない先送りは許されません。一日も早く、建て替え着工に取り組むべきことを要請しました。

県内からの母体搬送・エボラなど感染症指定病院など 広域的な役割果たす市民病院だけに県や国も支援を！

市民病院は、市民の健康と命を支える大切な役割を果たしているほか、周産期母子医療に取り組むなかで重症の新生児への対応や、南九州で唯一のエボラ出血熱などに対応する感染症指定病院となるなど、本来

ならば、国立病院や県立病院が果たすべき広域的な役割を担っています。

熊本市は一般会計からの繰り入れを拡充するほか、県や国の積極的な財政支援を求めるなど、病院建て替えを最優先に行うべきです。

2月20日午前10時～12時

益田牧子議員が一般質問を行います。

一般質問の準備を進めています。ご意見をお寄せ下さい！

1、大西市長の政治姿勢

①憲法9条と平和都市宣言20周年の取り組み

2、市民のいのち、くらし・教育優先の新年度予算へ

①がん検診無料化、市民病院建替凍結中止、子ども医療費中3まで無料化

②桜町再開発でのMICE施設整備は中止と中心市街地活性化

③市営住宅アンケート結果と改修推進、

④国保料引き下げ・資格証明書発行中止など国保問題

⑤介護保険の課題と自治体の取り組み

⑥教育環境の整備：小・中学校へのエアコン設置、全学級への35人学級

3、地域経済の振興～住宅リフォーム・商店リニューアル助成制度、公契約条例の制定、TPPと農業問題

【控え室から】

市民の切実な声

上野 みえこ

日本共産党市議団で、「市営・県営住宅」についてのアンケートに取り組みました。続々と回答が寄せられています。

「家賃が安く、便利なところにあるので住み続けたい」という意見の一方で、「30年以上住んでいるのに、1回も畳替えがない」という声に代表されるように、畳替えや床の張替えがほとんどされず、外壁ははげかき、水回りが痛んで、床もフアフアになってしまっているなど、老朽化が放置されている状況が細々と書き込まれています。これまでも、公営団地からの要求が寄せられた場合は、住宅課に改善を求めてきました。今回、全体的に行ったアンケートで、その全容が明らかになった形です。

熊本市は、440億円も税金を投入する桜町再開発・MICE整備をすすめています。MICE整備は中止して、市民の切実な声に応え、市民病院の耐震化・建替えや、団地をはじめ公共施設の維持・管理・更新こそ適切に行っていくべきです。